

調べて発見！社会科6年（5年の復習）①

さいがい
自然災害とともに生きる

◎ この 学習問題 を解決するために、教科書やNHK for School のインターネット動画などで調べて行こう。↓

自然災害からくらしを守るために、どのような取り組みが行われているのだろう。

<この資料で調べよう>

- ・教科書「小学社会 5下」P40－47
- ・NHK for School「未来広告ジャパン！」～自然災害から命とくらしを守る～
- ・「社会科資料集5年」P124－125 など

1. 日本で起きる自然災害にはどのようなものがあるだろう。

- 日本では、などの自然災害が発生している。
- は、プレートの さいかい 境に近い場所で多く起きている。プレートとは、地球の表面をおおう岩石の そう 層で、日本の周辺では、いくつかのプレートがそれぞれ少しずつ動きながら押し合っている。
- ふんか 噴火や どしゃ 土砂くずれは という地形と関係があり、大雪は地域の と関係がある。

2. 自然災害からくらしを守るために、だれがどのような取り組みをしているのだろう。

- 自然災害からくらしを守るために、や 、市区町村は、防災 しせつ 施設をつくったり ひなん 避難場所を決めて知らせたりと、様々な公共事業に取り組んでいる。

防災施設の例	目的
避難タワー	() から避難する
さぼう 砂防ダム	() の流れをせき止める
なだれ防止のさく	() の落下を防ぐ
地下の放水路	() を防ぐ

3. 自然災害からくらしを守るために、わたしたちはどのような取り組みをしていけばよいだろう。

◎ わたしたちにできることを挙げてみよう。

- ・
- ・
- ・

○ 公助^{こうじょ}とは・・・

○ 共助^{きょうじょ}とは・・・

○ 自助^{じじょ}とは・・・

4. 自然災害からくらしを守るために、どのような取り組みが行われているのだろう。学習して分かったことと考えたことを、「プレート」「山地」「公助」「共助」「自助」の言葉を使って書こう。

調べて発見！社会科6年（5年の復習）①

自然災害とともに生きる

答え合わせのページ

下の答えは例です。答え方は別にある場合もあります。

なやんだ時は、聞いたり調べたりして解決しましょう！

1. 日本で起きる自然災害にはどのようなものがあるだろう。

○ 日本では、地震、津波、台風、土砂くずれ、噴火、大雪などの自然災害が発生している。

○ 地震は、プレート^{さかい}の境に近い場所で多く起きている。プレートとは、地球の表面をおおう岩石^{そう}の層で、日本の周辺では、いくつかのプレートがそれぞれ少しずつ動きながら押し合っている。

○ 噴火や土砂くずれは山地という地形と関係があり、大雪は地方の気候と関係がある。

2. 自然災害からくらしを守るために、だれがどのような取り組みをしているのだろう。

○ 自然災害からくらしを守るために、国や都道府県、市区町村は、防災施設^{しせつ}をつくったり避難場所^{ひなん}を決めて知らせたりと、様々な公共事業に取り組んでいる。

防災施設の例	目的
避難タワー	<u>津波</u> から避難する
<u>さばう</u> 砂防ダム	<u>土砂</u> の流れをせき止める
なだれ防止のさく	<u>雪</u> の落下を防ぐ
地下の放水路	<u>洪水</u> を防ぐ

3. 自然災害からくらしを守るために、わたしたちはどのような取り組みをしていけばよいだろう。

◎ わたしたちにできることを挙げてみよう。

- ・ 学校や地域の避難訓練に取り組む。
- ・ 防災マップを作り、地域の防災施設の場所や避難場所を確認しておく。
- ・ 家で防災グッズを用意し、避難方法について家族と話し合う。
- ・ 過去の災害の経験^{けいけん}を語りついでいく。

など

○ 公助^{こうじょ}とは・・・国や都道府県、市区町村による取り組み。

○ 共助^{きょうじょ}とは・・・地域や近所で協力して安全を守る取り組み。

○ 自助^{じじょ}とは・・・自分たちでできる取り組み。

4. 自然災害からくらしを守るために、どのような取り組みが行われているのだろう。学習して分かったことと考えたことを、「プレート」「山地」「公助」「共助」「自助」の言葉を使って書こう。

(解答例)

日本はプレートに囲まれ、山地が多いことなどから、地震などの自然災害がたくさん起こる。だから、被害を最小限にくいとめるためにいろいろな人がいろいろな取り組みを行っている。

国や都などが行っている「公助」では、防災施設をつくったり学校などの施設を地震にたえらえるように改修したり、防災無線や標識、防災マップで情報を伝えたりしている。次に、地域での「共助」では、防災訓練を行ったり防災会議を開いたりしたりしている。自分での「自助」では、避難場所や非常持ち出しぶくろを家族で確認しておくことが大切だ。

わたしも、公助や共助ばかりにたよらず、自分でできることを日ごろから考えて被害を最小限にできるようにしたい。